



市内の小・中学校の卒業式がありました。私は、赤城南中と中郷小の卒業式に出席しました。

両校とも新型コロナウイルス感染症に対応して、出席者の数を減らし時間を短縮して行われました。しかし、会場は、いつもの年と同じように、

こんにちは!!

市長です

Vol.41

「卒業式」

厳粛な空気に包まれていました。

今年の卒業生は、最終学年をコロナ禍の中で過ごしました。私は、あいさつの中で、子どもたちに、先生や仲間と一緒に運動会や修学旅行などの楽しい学校生活を、存分に送らせてあげられなかったことをお詫びしました。

卒業生の答辞には、学校や家で普通の生活ができることのありがたさや、卒業式が開催できたことへの感謝の言葉が盛り込まれていました。当たり前のように行われていたことができなくなっている中ですが、子どもたちの「制約のある中でも、学校で仲間とともに学ぶことができて楽しかった」という言葉に感動しました。

京都の龍安寺に「吾唯知足（われただ たるをしる）」の文字が刻まれたつくばいがあります。満足する気持ちを持ちなさいという釈迦の教えです。コロナ禍でできないことを恨まず、その中でもできることを見つけ、新しい充実した日常生活を築いていきたいものです。

これからも子どもたちが、さまざまな困難を乗り越えて大きく成長し、はばたいてくれることを心から祈ります。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館(☎3215)

## 美術の小窓



### 《早蕨》

桑原巨守作

1989年

高さ:90cm

素材:ブロンズ

早蕨というタイトルからも季節感あふれる作品です。作家は、タイトルに思いを込めることもあります。現在、常設展示室で展示中です。

### ●イベントカレンダー

会場	展示内容	期日	観覧料
常設展示室	常設展・前期 桑原巨守彫刻作品	～8月1日(日)まで	200円
企画展示室	The rising generation 箱の中に見えるもの vol.5	4月29日(祝) ～5月23日(日)	300円

■開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)  
※観覧料は、65歳以上・中学生以下は無料

●4月の休館日 6日(火)、13日(火)、20日(火)、27日(火)

古代の貴族や役人の正装には革帯が必要で、その帯にはバックルにあたる「鉸具」、四角い「巡方」、かまぼこ形の「丸鞆」などの腰帯具(帯飾り)が付きまします。唐の国(中国)の正装をまねて始まったものです。

最初は銅製品でしたが、8世紀後半には石製のものが主流になります。

身分によって細かな規定があり、天皇はラピスラズリなど舶来の宝玉、貴族は上質な国産石材を用い、下級役人達は黒漆を塗った雑多な材質の帯飾りしか許されませんでした。

市内でもいくつか腰帯具が発見されていますが、中筋遺跡の丸鞆は大理石で、上級貴族が身に付ける白玉と呼ばれるものです。破片1つだけなので、貴族が住んでいたとは考えられず、中央貴族と会ったときに、記念に壊れたかけらをもらったのかもしれない。



裏側(右)には革帯に留めるため銅線を通した穴がある  
腰帯具と中筋遺跡の丸鞆(表と裏)

古を訪ねて 37 古代官人と帯飾り